

2022年12月4日(日)晴れ～曇り。昨日は御宿の旅館に一泊した。御宿駅から朝一番のバス(8:00)で、今日のコース出発地点に向かう。

距離も8.4kmと短いから、午前中に⑱、⑲と歩き、午後更に⑳コースの前半を歩く予定にしている。天気も穏やかだから大丈夫だろう。



「⑱荒磯のみち」コース案内板(勝浦駅に設置)(首都圏自然歩道連絡協議会)



行程概略図(部原漁港→官軍塚→勝浦灯台→八幡岬公園(勝浦城址)→勝浦駅)



御宿駅発一番バス(8:00)で目的地の部原バス停に向かう、乗客は私一人



部原(へばら)バス停で下車、ここから歩き出す



まずは部原の集落を通り抜け、官軍塚方面に向かう



豊浦漁港、船溜まりは波が無いが、外海は荒れている



川津漁港



川津漁港を離れて標高 66mの台地にある官軍塚を目指す



尾根上に出ると道標が道案内してくれる



「官軍塚」 この半島の一番見晴らしの良い所に、遭難兵士を埋葬する。明治2年戊辰戦争で、函館に立て籠もる榎本武揚幕府軍に対し、政府軍は熊本藩から軍船を出したが嵐で遭難、230名を超える死者を出した。



官軍塚から見た勝浦灯台と勝浦湾遠望



釣師海岸と同じような断崖絶壁が連なる、台地が波に岩が削られたのが、良くわかる



「勝浦灯台」(無人) 大正6年2月点灯、外房を守る重要な灯台 14万燭光で、41km先まで照らす



八幡岬突端の八幡公園(勝浦城址)を目指す



官軍塚、勝浦灯台、勝浦城址と歩くと、ここは勝浦観光協会の守備範囲で、案内板や地図が分かりやすく表示されている



官軍塚、勝浦灯台、八幡岬公園(勝浦城址)周辺案内図



「勝浦湾」今日は波が荒いのだろうか



「勝浦城址」要害の地である。

三浦一族の正木氏の居城であったが、天正 18 年(1590)秀吉の小田原攻めで、徳川の本田忠勝により攻められて落城



「天主台跡」正木頼忠の娘は落城後生き延び、家康の側室となって紀伊の徳川頼宣、水戸の徳川頼房を生んだ。
生母お万の方生誕地でもある



岬の台地から朝市で有名な、勝浦市街に入る



勝浦漁港も波が荒く、休漁であった



JR 外房線 安房勝浦駅到着 11 時であった。お弁当を買って更に次のコースを歩き続ける

[参考タイム] 御宿駅(8:00)→部原バス停(8:10)→豊浦港(8:33)→川津港(9:00)→官軍塚(9:25-9:55)

→勝浦灯台(9:50-9:55)→勝浦城址(10:20-10:30)→JR 勝浦駅(9:55) 12.8km 2 時間 45 分

この項完

「関東ふれあいの道を歩く(千葉)⑩理想郷を訪ねるみち」に続く